

LCC主要メンバーによる 搬送ルート等視察

〜LCCの実現に期待感〜

国際リニアコライダー（ILC）を推進する国際研究者による組織「リニアコライダー・コラボレーション（LCC）」の主要メンバーが、1月13日にILC国内建設候補地である北上高地周辺を視察するため、当市と気仙沼市を訪れました。LCCの最高責任者であるリン・エバンス氏は、視察後の記者会見で「搬送ルートに問題は見当たらなかった」と語り、政府のILCの誘致決断については期待感を示しました。



視察後の記者会見に応じるリン・エバンス氏らLCC一行



気仙沼港での視察の様子



休憩場所の大原公民館でILCポスターコンクール作品を鑑賞

視察に訪れたのは、LCCの最高責任者であるリン・エバンス氏のほか、東北大学大学院理学研究科の山本均教授ら8人です。高エネルギー加速器研究機構（KEK）や県、市などのILC担当職員らも同行しました。今回の視察は、海外などで作られたILC関連部品の輸送環境の把握や、東北の産学官関係者と

の意見交換を行う目的で行われました。LCC主要メンバーによる現地視察は、平成25年10月に続いて2回目となります。気仙沼市では菅原茂気仙沼市長らと会談したほか、ILC関連部品の陸揚げが想定される気仙沼港の港湾機能を視察しました。菅原市長や宮城県

の意見交換を行う目的で行われました。LCC主要メンバーによる現地視察は、平成25年10月に続いて2回目となります。気仙沼市では菅原茂気仙沼市長らと会談したほか、ILC関連部品の陸揚げが想定される気仙沼港の港湾機能を視察しました。菅原市長や宮城

設中の防潮堤の概要、三陸自動車道の整備状況等について説明し、「今後、道路網が整備され、東京や仙台から直通の高速道路で結ばれることにより、拠点性の高い港湾になる」と優位性を強調しました。その後、気仙沼市から測定器等が設置される「衝突点」想定地である大東町地内に通じる道路を移動しながら、橋梁やトンネル等の道路構造物の状況を確認し、大型車両の通行における物流ルートの視察を行いました。

「と語りました。衝突点やその周辺に通じるアクセスルート上の橋梁、トンネル等の道路構造物についても「特に問題はなかった」と述べていました。また、文部科学省が、技術やコスト面などを詳細に調査している有識者会議（座長・平野真一名古屋大学名誉教授）におけるILC国内誘致の検討について、「文部科学省は真剣に取り組んでおり、その結果が出るのを見守っている。前向きな結果であることに期待したい」と語り、政府のILCの誘致決断に期待感を示しました。

Contents

- ◆LCC主要メンバーによる搬送ルート等視察
- ◆いちのせきサイエンスカフェ開催
- ◆両磐インダストリアルプラザによるまちづくり報告書作成
- ◆CERN創立60周年「還暦祝福」赤いちゃんちゃんこ贈呈
- ◆ILCをピーアール
- ◆ILC普及啓発活動の様子
- ◆ILCイラスト展（一関地域版）開催
- ◆平成27年度政府予算案にILC調査検討費5千万円計上



市内での歓迎レセプションの様子

きサイエンスカフェ」を行っております。

1月18日に開催された第4回サイエンスカフェでは、東北大学・岩手大学客員教授の吉岡正和氏が「ILCと地域」と題し講演しました。企業関係者や市内各地域から35人が参加しました。

さらに地元自治体への要望については、「最良な形でILCが建設されるために、岩手県、宮城県、関係各市との交流を深めていきたい。海外からの研究者らを受け入れるための施設や交通網の整備を進めていくことが重要だ」と語りました。

同日夕方には、市内で歓迎レセプションが催され、達増岩手県知事や勝部市長、東北大学等の関係者らが出席し、親交を深めました。

いちのせきサイエンス カフェ開催

市では素粒子物理学をはじめとする科学について、研究者などの専門家と気軽に語り合い、科学を身近に感じ、親しむことを目的に、「いちのせ

吉岡先生は、ILCと地域産業の関わりについて、「加速器技術の分野は裾野が広く、材料、加工、施設設計など多種多様にわたる。東北における自動車産業のように加速器産業を新たに作りたい」と語り、「ILCで使われる加速器技術を新たな産業に結びつける研究者が必ず出てくる。私自身、KEKを退職後、加速器技術を応用した、がん治療装置の開発に携わっている」と自身の体験を交え説明しました。また、地域に与える影響については、「ILC実現に伴い地域の国際化はもちろんだが、特に教育分野への影響が大きい。国内外の優秀な研究者の子どもたちと地元の子どもたちがともに学び、地域で生活することにより、研究学園都市として発展してきたつくば市のように地域全体の学力水準の向上が期待される」と述べ、ILCの実現に期待を込めていました。

会場からは、トンネル掘削で生じるブリの処理や地域の格差が生じないかとの質問があり、ブリ処理については、「地下トンネルにアクセスするための入り口付近に整備される地上施設の造成に多くのブリが使用されると思う。また、ブリそのものが良好な花崗岩から出てくるものなので、それを活用したい人がいれば、安価に譲ることも考えられる」。地域の格差については、「つくば市では当初、公務員や研究者住宅の建築が急速に進み、地域住民との交流はあまりなかった。最近はそのような垣根がなくなり、地域として様々な活動を一緒に行っている」と回答しました。



第4回サイエンスカフェの様子

に質問するなど、会場は大いに盛り上がりました。

両磐インダストリアル プラザ(RIP)による まちづくり報告書作成

工業振興を目的とし、一関地方の28事業所で作る両磐インダストリアルプラザ(RIP)・菊地慶矩会長(川嶋印刷(株)代表取締役)は、ILCの実現を見据えたまちづくりの検討結果を報告書にまとめ、12月5日に勝部市長へ提出しました。当日は、菊地会長と橋本雅男副会長(NECネットワークプロダクツ(株)一関工場長)、一関商工会議所の高橋宏之常務理事の3人が市役所を訪れました。報告書にはまちづくりを考える上で教育、食と文化、魅力の3分野に細分



RIP菊地会長からまちづくり報告書を受け取る勝部市長

化し、その分野ごとに課題や対応策などが明記されており、「1月に開催を予定しているRIP主催の市長懇談会で議論させてほしい」との要望が橋本副会長からありました。勝部市長は、「具体的に何がどう関わってくるのか見えにくい段階だが、こうした動きが地元から出てきていることをILCの推進組織に情報発信していく必要がある」と語り、KEK等関係者へ報告書を送付したい意向を示しました。

1月29日に開催された、勝部市長とRIP会員との懇談会では、ILCの実現を見据えたまちづくりについて検討結果が示されました。

このうち、教育について、「市は、英語の森キャンプを開催するなどの取組を行っているが、国際都市に向けた英



勝部市長とRIP会員による懇談会の様子

語教育をどのように計画しているか」「市内の公共施設の内表示を日本語と英語の2カ国語表記化したらどうか」等の質問や意見が寄せられました。

勝部市長は、「英語の森キャンプ事業のように子どもたちを英語漬けの環境に入れると、子どもたちはその環境に柔軟に対応する。今後もそういった環境、機会の提供を行っていききたい」と語り、「子どもたちには国際会議へ立ち会わせたい。コーヒーブレイクの際のコーヒーや茶菓子の給仕などをしてもらい、外国人研究者と会話する機会を作っていききたい」と強調。日本語と英語の2カ国語表記化の推進については、「地域の観光案内板の英語表記について、地域の子どもたちが自分たちの地域を理解し、認識を深める地元学と一緒に進めていきたい」と回答しました。

CERN創立60周年 「還暦祝福」赤い ちゃんちゃんこ贈呈

市は、スイスの欧州合同原子核研究機構（CERN）が創立60周年を迎えたことから、日本の還暦祝いにちなんで、赤いちゃんちゃんこを帽

子、扇子をCERNのロルフ・ホイヤー所長に贈呈しました。

CERNは、フランスとスイスの国境に近いジュネーブ郊外にある世界最大規模の素粒子物理学研究所で、地下には円形加速器・大型ハドロン衝突型加速器（LHC）が国境を横断して設置されています。第二次世界大戦により荒廃した欧州が一つとなり、素粒子物理学の共同研究を行うことを目的として1954年に設立されました。

勝部市長は、同封の手紙で「平和のための科学をモットーとしたCERNの益々の発展を祈ります」と祝意を表し、ロルフ・ホイヤー所長はフェイスブック上にお礼のメッセージと写真を投稿しました。



赤いちゃんちゃんこを受け取るロルフ・ホイヤー所長

I-LCCをピーアール

各種イベントでパネル等掲示

「日本のまつり・故郷の味」をテーマに、ふるさと祭り東京実行委員会（フジテレビジョン、文化放送、東京ドーム）が主催する「ふるさと祭り東京2015」が1月9日から18日まで東京ドームで開催され、市の観光、物産のピーアールと併せて、I-LCCのパネル等も展示しました。

期間中は、42万人余りの来場者があり、I-LCCの実現に向けて情報発信を行いました。また、2月18日に市内を中心としたものづくり企業等55社9団体が参加し、市総合体育館で行われた「企業情報交



ふるさと祭り東京2015での出展の様子

換会inいちのせき」では、参加した企業や来場した多くの市民が、I-LCCのパネルや普及啓発のDVD、I-LCCの研究装置で使用されるニオブ製の超伝導加速空洞に目をとめ、「I-LCCの実現可能性は」「会社で持っている技術がI-LCCにどのような生かせるか」「I-LCCではどのような工事が行われるのか」などの質問を寄せるなど、I-LCCへの関心の高さがうかがえました。



企業情報交換会inいちのせきでの出展の様子

I-LCC普及啓発活動の様子

男女共同参画サポーター 研修会でのI-LCC講演会

男女共同参画社会の推進を担っているサポーター等を対

象とした、I-LCC講演会が1月29日に一関市役所で開催され、男女共同参画サポーター等17人が出席しました。「I-LCCの実現に向けた地域づくりと男女共同参画の推進」をテーマに講演した勝部市長は、「相手の国の文化や特徴を理解しようという気持ちが大切であり、それがおもてなしの心だと考える。今すぐ、何かを変えなければとか、この準備をしなければということではない。ありのままの一関、地元的生活を知ってもらおうということも必要である」と強調しました。

この他、I-LCCの実現に向け、加速器などの実験施設の説明、視察やワークショップ開催の様子、国への要請など



男女共同参画サポーター研修会でのI-LCC講演会の様子



平泉町職員研修会でのILC講演会の様子

実現に向けた動き、研究所や住環境などについて講演し、参加者はメモをとるなど、熱心に聴講していました。

平泉町職員研修会でのILC講演会

市と平泉町の定住自立圏形成に向けた取組の一環として、平泉町職員を対象としたILC講演会が2月12日に同町保健センターで開催されました。青木幸保平泉町長をはじめ町職員25人が出席し、勝部市長が講師を務めました。「次世代への贈り物・ILC」をテーマに講演した勝部市長は、「二関、平泉を中心とした、北上高地にILCを実現するには、100年先を見越した受入環境の整備が必要

者向け講座「厳美人生大学」のILC講演会が1月22日に同公民館で開催されました。同大学受講者約50人が出席し、市ILC推進室職員が講師を務めました。「国際リニアコライダーの実現に向けて」をテーマに講演し、県が作製した普及啓発のDVDも併せて上映しました。

出席者からは、政府における検討の進捗などの質問が寄せられ、ILCの実現に向けた理解や関心が一層深まった講演会となりました。

厳美人生大学でのILC講演会

このほか、ILC計画の概要をはじめ、実現に向けた動き、加速器技術による関連産業の集積で期待される効果、想定される今後のスケジュール等を説明しました。



厳美人生大学でのILC講演会の様子

ILCイラスト展（一関地域版）開催

市では、市民がILCへの関心を高め、イメージを深めることを目的に、ILC関連イラストパネルを作製しました。KEK等でILCのイラストを手掛けるコンピュータグラフィックス（CG）イラストレーターRey・Horii（本名・堀内啓）さんが描いたイラストパネルは、縦60cm、横84cmの大きさで、ILC実験施設の全景や素粒子の反応を調べる測定器、素粒子をほぼ光速まで加速させる超伝導加速空洞など、KE



山目公民館でのILCイラスト展の様子

K監修の下に描いたもので16枚を一組としています。本庁と各支所に一組ずつ配置して、ILCの実現に向けた普及啓発に活用していきます。

なお、2月9日から山目公民館を皮切りに、一関地域において、ILCイラスト展を次のとおり開催しておりますので、この機会にぜひ御覧ください。

▽弥栄公民館3月11日～24日、▽舞川公民館同27日～4月9日、▽狐禅寺公民館同11日～24日、▽中里公民館同27日～5月10日、▽厳美公民館同13日～26日、▽萩荘公民館同28日～6月10日、▽一関図書館同13日～28日

平成27年度政府予算案にILC調査検討費5千万円計上

2月12日に国会へ提出された平成27年度政府予算案に、ILC計画の実施可否判断に関する調査検討費として、今年度予算と同額の5千万円が計上されました。

調査検討費は、ILCの国際推進組織が作成した、技術的な設計書の内容や建設費について、技術的な実現可能性等を調査するものです。なお、政府は、来年度を目途にまとめる有識者会議での結論を踏まえ、ILC誘致を最終的に判断する見通しです。

ILC ニュース Vol.12
2015. March

発行 岩手県一関市

編集 企画振興部 ILC推進室

〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号

TEL 0191-21-8641

FAX 0191-21-2164

URL <http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/ilc/>

E-mail ilc@city.ichinoseki.iwate.jp

